

業務状況説明書

(令和3年10月1日から令和4年3月31日まで)

富士見市下水道事業

1 令和3年度下半期の状況

(1) 事業の概況

ア 業務

令和3年度末における水洗便所化人口は、110,233人で、前年度末に比べ621人の増加となっています。

1日平均処理水量は2,182 m³の減少、有収水量は10,700 m³の増加となっています。

年度 区分	令和3年度 (年度末)	令和2年度 (年度末)	比較	
			増減	増減率(%)
水洗便所化人口(人)	110,233	109,612	621	0.57
1日平均処理水量(m ³)	33,787	35,969	△2,182	△6.07
有収水量(m ³)	10,715,179	10,704,479	10,700	0.10

イ 建設改良事業

公共下水道の汚水事業につきましては、山室ポンプ場更新工事を実施しました。また、柳瀬第9処理分区(大字水子地内)、江川第2処理分区(鶴瀬西2丁目地内)の管渠築造工事を実施しました。雨水事業につきましては、別所雨水ポンプ場の更新工事や耐水化計画の策定、柳瀬川第一排水区(大字水子地内外)の浸水対策基本計画策定業務委託等を進め、鶴瀬駅西口土地区画整理地内(区6-14号線)の管渠築造工事を実施しました。

次に、特定環境保全公共下水道の新河岸第14処理分区(大字上南畑地内外)、新河岸16-1-1処理分区(大字下南畑地内)管渠築造工事を実施しました。

なお、公共下水道の富士見市下水道施設耐水化計画策定業務委託、浸水対策基本計画策定業務委託、公共下水道施設更新実施設計業務委託、特定環境保全公共下水道の公共下水道都市計画決定図書作成業務委託、畑下ポンプ場改修工事、新河岸第16-1-1汚水管渠築造工事(第1工区)、舗装本復旧工事(特環その1)につきましては、必要となる資料の収集や関係機関との協議に不測の日数を要したことなどから、令和4年度に繰越をいたしました。

(2) 経理の状況（税込）

下半期における経理の状況は、次のとおりです。

ア 収益的収入及び支出

(単位:千円)

科目	予算現額	執行額			執行率 (%)	
		上半期	下半期	計		
収入	事業収益	1,782,654	940,474	881,770	1,822,244	102.22
	営業収益	1,326,639	828,189	523,532	1,351,721	101.89
	営業外収益	456,014	112,073	348,770	460,843	101.06
	特別利益	1	211	9,469	9,680	968,000.00
支出	事業費	1,633,482	227,895	1,273,422	1,501,317	91.91
	営業費用	1,511,446	173,484	1,215,717	1,389,201	91.91
	営業外費用	120,986	54,273	57,706	111,979	92.55
	特別損失	550	138	0	138	25.09
	予備費	500	0	0	0	—

イ 資本的収入及び支出

(単位:千円)

科目	予算現額	執行額			執行率 (%)	
		上半期	下半期	計		
収入	資本的収入	1,046,537	56,506	599,128	655,634	62.65
	企業債	818,700	0	433,200	433,200	52.91
	国庫(県)補助金	178,850	0	159,150	159,150	88.99
	負担金	48,987	56,506	6,778	63,284	129.19
支出	資本的支出	1,841,390	878,252	540,906	1,419,158	77.07
	建設改良費	1,174,849	555,453	208,595	764,048	65.03
	企業債償還金	665,541	322,798	332,312	655,110	98.43
	予備費	1,000	0	0	0	—

2 令和4年度予算の概要

(1) 予算編成概要

下水道事業においては、新型コロナウイルス感染症予防対策に伴う外出自粛や在宅勤務の定着により、生活用水量の増加傾向が続くと考え、主たる収益である使用料収入の増収を見込んでいる。一方で、人口増加の鈍化や生活様式の多様化により、長期的には使用料収入の減少が懸念される。また、今後増大する老朽化施設の更新や激甚化・頻発化する災害への対応に多額の費用が必要となることを見込まれます。

令和4年度の公共下水道汚水事業については、施設の適正管理を目的に管渠更生やポンプおよびゲート施設の更新工事を実施するとともに、南畑地区について生活環境の向上や水質保全を目的に管渠整備を図るほか、地震対策や老朽化対策の業務委託を実施する。次に、公共下水道雨水事業については、別所雨水ポンプ場の更新工事委託や浸水対策などの業務委託を実施します。

今後も安全・安心の確保と快適な生活環境・水環境の向上、下水道事業の持続に資するため、施設の計画的な整備と維持管理に努め、経費の削減はもとより、健全で効率的な経営を推進するための予算を編成しました。

(2) 業務の予定量

区 分 \ 年 度	令和4年度	令和3年度	増減
年間処理水量 (m ³)	13,602,361	13,380,164	222,197
水洗化世帯戸数 (戸)	57,210	56,765	445
管渠布設距離 (m)	1,820	2,180	△360

(3) 予算規模

第3条予算（収益的収入及び支出）の収入は、前年度比2.2%増の18億2,233万7千円、支出は、前年度比4.4%増の17億592万5千円で、収支差引で1億1,641万2千円の黒字となっています。

第4条予算（資本的収入及び支出）の収入は、前年度比11.8%増の6億6,665万6千円、支出は、前年度比0.5%増の13億5,618万5千円となり、収支差引では6億8,952万9千円の赤字が見込まれますが、この赤字分については、損益勘定留保資金等で補てんするものとしております。

(4) 収入支出明細書

収 益 的 収 入 及 び 支 出

収 入

(単位：千円)

款 項	目	予 定 額	備 考
下水道事業収益		1,822,337	
営業収益		1,367,420	
	下水道使用料	1,064,758	下水道使用料の予定額を計上
	他会計負担金	302,277	汚水及び雨水処理負担金等の予定額を計上
	その他の 営業収益	385	下水道指定工事店指定手数料等の予定額を計上
営業外収益		454,916	
	受取利息	62	定期・預金利息の予定額を計上
	他会計補助金	97,369	一般会計からの補助金の予定額を計上
	長期前受金戻入	353,689	長期前受金の戻入予定額を計上
	雑収益	1,796	勝瀬原調整池及び桜井雨水幹線占用料等の予定額を計上
	補助金	2,000	下水道施設の維持管理に対する国庫補助金の予定額を計上
特別利益		1	
	過年度 損益修正益	1	過年度損益修正益を計上

支 出

(単位：千円)

款 項	目	予 定 額	備 考
下水道事業費用		1,705,925	
営業費用		1,591,191	
	管渠費	621,131	管渠の維持管理に要する経費を計上
	業務費	82,890	使用料の徴収業務等に要する経費を計上
	総係費	33,915	下水道事業の総括的経費を計上
	水洗化促進費	265	水洗化促進に要する経費を計上
	減価償却費	833,625	固定資産の減価償却費を計上
	資産減耗費	19,365	固定資産除却費を計上
営業外費用		113,684	
	支払利息	95,384	企業債及び一時借入金の利子を計上
	雑支出	300	過誤納に伴う還付金等(過年度分)を計上
	消費税及び 地方消費税	18,000	消費税及び地方消費税納税予定額を計上
特別損失		550	
	過年度 損益修正損	550	過年度損益修正損を計上
予備費		500	
	予備費	500	

資 本 的 収 入 及 び 支 出

収 入

(単位：千円)

款 項	目	予 定 額	備 考
資 本 的 収 入		666,656	
企 業 債		568,100	
	企 業 債	568,100	下水道施設の建設に対する企業債の予定額を計上
国庫(県)補助金		61,750	
	国庫(県)補助金	61,750	下水道施設の建設に対する国庫補助金の予定額を計上
負 担 金		36,806	
	負 担 金	36,806	受益者負担金及び一般会計負担金等の予定額を計上

支 出

(単位：千円)

款 項	目	予 定 額	備 考
資 本 的 支 出		1,356,185	
建 設 改 良 費		762,412	
	建 設 総 係 費	84,322	下水道建設事業に要する事務費を計上
	公 共 下 水 道 建 設 事 業 費	363,912	公共下水道の建設に要する経費を計上
	特 定 環 境 保 全 公 共 下 水 道 建 設 事 業 費	178,094	特定環境保全公共下水道の建設に要する経費を計上
	流 域 下 水 道 事 業 費	136,084	流域下水道事業建設負担金を計上
債 還 金		592,773	
	企 業 債 債 還 金	592,773	企業債元金の償還金を計上
予 備 費		1,000	
	予 備 費	1,000	